

平成24年度第1回社会教育委員会議会議録

開催日	平成24年7月3日(火)		開会時間	10時00分		
会場	市役所5階 503会議室		閉会時間	12時00分		
委員の出欠状況	亀卦川 誠也	欠	加藤 聡司	出	磯崎 茂	出
	榎本 俊明	出	木村 聡子	欠	山形 克己	出
	柳下 雅弘	欠	石田 康雄	出	富田 延子	出
	○鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	出		
	村山 喜三江	欠	平松 あかね	欠		
	北原 節子	出	◎大谷 鐵子	出	◎議長 ○副議長	
傍聴者	1名					
事務局	<b>【教育委員会】</b> 大久保教育長、上篠教育部長 <b>【生涯学習課】</b> 星野次長兼課長、亀井課長補佐、中田統括主査、渡辺主事、永堀社会教育指導員、吉澤主事 <b>【スポーツ青少年課】</b> 河野課長、並木課長補佐					
議題	1 平成24年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について 2 平成23年度事業報告及び平成24年度事業実施予定について (1) 生涯学習事業について (2) 文化財保護事業について (3) 青少年担当及び健全育成関係団体事業について (4) スポーツ振興事業について 3 平成24年度社会教育関係団体への補助金交付について 4 社会教育推進に関する意見交換について 5 その他					

- 1 開会
- 2 委嘱式
- 3 あいさつ

○大久保教育長

平成24年5月18日、文部科学省生涯学習政策局第65回生涯学習分科会が開催され、今後の社会教育行政のあり方について討論が行われた。分科会では、社会教育の現状・課題・今後の方向性等について述べられており、首長部局、民間教育事業者、大学等における社会教育の養成、住民ニーズに対応するための取り組み、自立した豊かな地域社会の形成を進めていくなど、今後社会教育行政がどのような役割を果たしていくべきかといったことが論点となった。

さらに、国・都道府県・市町村が担うべき役割について、論点が絞って報告された。その中で、現代的・社会的課題の対応として、従来の公民館活動一つとっても、趣味・教養の学習も重要だが、学習後の地域のネットワークや、社会連帯意識につながっていく部分が、弱くなってきているという指摘もあった。地域の絆の基盤と

して、社会教育が役割を果たすためには、社会的・公共的ニーズの高い現代課題についても取り上げていかなければならないという指摘もあった。地域の課題を市民自ら発見し、そして解決を図り、自立した市民の育成をどのように図っていけばよいかという内容も検討された。特に、街づくり、環境、健康などの分野に関わってくる市民を引っ張ることが、社会教育の重要な役割である。

そういった指摘を受け止めながら、現状分析、課題を洗い出し、今後の社会教育の振興・充実に対して、行政が何かできるかといった点について、委員の皆様から忌憚ないご意見をいただきながら、進めていきたい。

#### ○事務局

市民参加条例第12条第4項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

## 2 あいさつ

事務局自己紹介

## 3 議題

### (1) 平成24年度和光市教育行政の基本目標と重点施策について

○議長（進行）

○事務局

資料1「平成24年度和光市教育行政の基本目標と重点施策」に基づき説明。

○各委員

質疑なし

### (2) 平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画について

ア 生涯学習事業について

イ 文化財保護事業について

ウ 青少年担当及び健全育成関係団体事業について

エ スポーツ振興事業について

○事務局

資料2「平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画」に基づき、事業実施に関する写真と合わせて説明。

○富田委員

中高生は、部活動があるかと思うが、その世代の青少年に対する学習機会があまりみうけられないようだが、生涯学習課として何かその世代を対象とした講

座は他にあるか。また、今後の講座の予定について伺いたい。

#### ○事務局

中高校生は、学校教育ではさまざまな学習活動があるが、社会教育施設の公民館では、中高校生向けの講座も一部ある。また、学校教育と社会教育の連携として、ボランティア活動に参加してもらっている。例えば、新倉ふるさと民家園では、中学生にボランティア体験の場を提供した。また、デジタルミュージアム作成時には、和光国際高等学校と連携し、生徒に市内の文化財を動画で紹介してもらった。この事業は、生涯学習の一環として高等学校と市が連携して実施できたものである。

#### ○磯崎委員

文化財保護事業として、区画整理事業を前段とした調査であると思うが、平成24年度に白子3丁目の発掘調査を実施していると思うが、進捗状況や予算の状況について教えて欲しい。

また、市内の公共施設文化財案内板は、設置からかなり時間が経過しているので、補修して欲しい。

#### ○事務局

白子三丁目発掘調査の進捗状況については、順調に進んでいる。区画整理事業に伴い、白子3丁目は3チームに分かれ実施。予算については、区画整理事務組合から和光市遺跡調査会に委託され実施しているが、予算は通常規模。

公共施設文化財案内板については、現在市内で十数枚あるが、時間の経過とともに劣化している部分も確かにある。現在の財政状況からすぐに予算化することは困難と思われる。補修については、今後も事務局から財政当局に要求していきたい。

#### ○伊藤委員

社会教育功労表彰の選考基準、功績、選考経過、名前の公開等について伺いたい。受賞された方は、地域でご活躍され、和光市として誇れる人材のため、広く市民に周知する必要がある。

#### ○事務局

社会教育功労表彰は、和光市教育委員会表彰規程に基づき、選考委員会を設置し、選考している。選考基準は、体育協会・文化団体連合会の構成団体・婦人会・ボーイスカウト・青年会・文化財保護団体及び読書推進団体等の役員並びに公民館協力委員及び社会教育関係団体等の役員として10年以上従事し、その功績がすぐれた方。

教育委員会表彰式は3月に実施し、平成23年度表彰者は、和光市文化団体連

合会、和光市婦人会、公民館協力委員。表彰者の公表については、市ホームページ等で公表している。

○伊藤委員

市は、ホームページで公表しているというが、いつ公表されたか。どこの会議でもホームページに掲載されているという回答をいただくが、どこに掲載されているかわかりづらい。

○事務局

ホームページ掲載については、表彰式終了後の3月に市ホームページの新着情報に掲載。現在も表彰者名簿が掲載されている。

○北原委員

文化財保護事業の発掘調査作業について、ボランティアを募集しているのか。

○事務局

ボランティアは募集していないが、臨時職員を採用。現在、20名登録されており、遺跡の発掘状況に応じて実施。

○北原委員

発掘調査については、興味のある方が多いと思うので、初心者でも発掘調査が行える状況であれば、給料を払わず、ボランティアを採用したほうがよいのではないか。

○事務局

発掘調査については専門性を有しており、遺跡の破片がなくなっても、欠けてもいけないし、削り方についても専門の監督者の指示を受けながら実施。研修を行って熟練を有する方と進めている状況なので、ボランティアを活用するのは、現状では難しい。

○富田委員

中高生等の講座があまりないようだが、例えば、放課後子ども教室等で、講師として中高生を招き、小学生に分かりやすく教えるというように、小学生と中高校生が交流する機会を設けてはどうか。

第二中学校であれば、囲碁・将棋部が有名であるため、優秀な生徒を講師として招いてはいかがか。

○榎本委員

小・中・高校生の連携は、大変貴重なご意見である。市内の中学校では、囲碁・

将棋や卓球部などは、地域に開いて、市民と交流しているものがある。そのような機会は、子どもたちも喜んで参加すると思う。

○大谷議長

市内の小中高校生は、夏休み期間を利用し、いろいろなところでボランティア活動を行っている実績がある。

○榎本委員

平成24年4月に和光市デジタルミュージアムが公開されたが、アクセス数や市民の声を教えて欲しい。

○事務局

アクセス数は、初日は200～300件アクセス、通常は1日50件程度。市民の声としては、今までこのような文化財に関するホームページがなかったのも、とてもわかりやすく、とてもよいものができましたねというメールをいただいた。

○大谷議長

先日、第四小学校にてサイバー犯罪対策講習会に参加。公開授業終了後に、6年生の児童と保護者から話を伺ったが、かなり多くの子どもたちが携帯を所持しているという状況に驚いた。また、その講習会に保護者の参加者がかなり少なく、とても残念。地域の方のほうに関心を示して参加していたが、保護者の参加者が少ない状況について、周知の方法で不足があったのではないかと。

○事務局

保護者を含めて周知を行ったが、参加者が少ないということは、周知について不足があったという認識もあるため、今後も周知を進めていきたい。

また、開催時期についても影響があったことかと思うので、今後も学校と調整した上で進めていきたい。

○富田委員

携帯電話の所持については、小学生でも当たり前の時代になっており、中高校になると更に多くなっている。子どもたちは、インターネットサイトの閲覧、ゲーム機同士の通信機能を使用している。本来であれば、サイバー犯罪対策講習会は子どもたちだけでなく、保護者も一緒に参加すべきであるが、サイバー犯罪対策の重要性を大人が感じていないことが多い。子どもに物を持たせ、子どもが使うものは子ども任せという現状がある。例え、保護者が有害サイトへアクセスを規制していても、規制を抜けられるものがある。サイバー犯罪被害については、実際に子どもあてに架空請求が届いたという話を学校から聞いたことがある。こういった犯罪は、被害に合ってからでは遅いので、予防策として、知識を得る目

的として講習会を今後も開催していただきたい。また、サイバー犯罪対策に関する情報をいつでもみることができるよう、情報を発信していただきたい。

○大久保教育長

議会でも情報機器に関する課題を指摘されるが、基本的には子どもに持たせたら、まず親としての責任を持つということ。学校教育で全てをまかなうことは現状不可能。学校教育では、既に情報教育としてサイバー犯罪対策について、保護者や子どもたちへ周知・指導をさまざまな方法で行っている。ただし、指導よりも情報機器は進展が目覚しく、敏感に保護者と共に対応していく必要がある。

今後も学校教育では、周知・啓発を推進し、また、講習会を今後も開催し、保護者にも情報をきちんと伝えながら、保護者にも自ら学ぶという姿勢を持っていただきたい。そのためには、学校・地域・保護者と連携し、一緒に解決していかなければならない。

最近では、通信機器メーカーがさまざまな形で安全策を講じるような対策もあるが、それだけに頼るわけにはいかない。

○山形委員

計画全般について、社会教育委員の職務として、社会教育に関する諸計画を立案するという職務がある。社会教育委員が計画の細部まで作ることは難しいが、平成24年度事業計画策定にあたっては、社会教育委員として意見を述べた記憶がないため、事業計画（案）の段階で、一度会議を開催し、意見を述べる場を設定し、精査する機会を設けていただければと思う。社会教育委員としての職務なので、平成25年度事業計画策定（案）時には、委員の意見を取り入れることができる開催時期を検討していただきたい。

○大谷議員

大変貴重なご意見ですので、ぜひ事務局にご検討いただきたい。

(3) 平成24年度社会教育関係団体への補助金交付について

○事務局

資料3「平成24年度社会教育関係団体への補助金交付」に基づき説明。

○鳥飼副議長

和光市体育協会として、平成24年度については、少林寺拳法及び合気道が周年記念事業のため、合わせて30万円の増額があるとのことだが、体育協会加盟団体としての人数を教えて欲しい。

○事務局

現在、少林寺拳法連盟は、男性40名、女性18名、合計58名です。また、

合気道については、男性 23 名、女性 15 名、合計 38 名です。

○加藤委員

周年記念事業として増額があるが、例えば、備品購入費や周年記念事業のみなど、補助対象経費などが決まっているのか。それとも、補助金額を各団体が自由に使えるものなのか伺いたい。

○事務局

団体で使ってもらうため、特段のしぼりはない。

○榎本委員

来年度以降も各団体等で周年記念事業がある場合、補助を検討するか。

○事務局

今の段階では、増額対応を検討する。

○大久保教育長

先ほどの山形委員のご意見で、社会教育委員の役割については、今回の会議で平成 23 年度事業内容を委員の皆様にご意見を伺っていただき、さらに市民意識や社会連帯感を委員の皆様の立場で伺っていただき、平成 24 年度事業をもっとこのように展開していったほうがよいといったご意見をいただけると事業計画がさらによりよくなるものになると思う。この会議のあり方も含めて、検討させていただきたい。

(4) 社会教育推進に関する意見交換について

テーマ「生涯学習を通じた地域のつながりの必要性」について

○事務局

市では、多様化、高度化する市民の学習ニーズに応えるため、全庁的な取り組みを推進するとともに、「自己を高めるための学びの場が充実しているまち、学びを通じて人の輪が広がるまち、そして、学んだ成果を発揮することで人々の活動の輪が広がっていくまち」を目指している。

また、市では人口流動性が高く、若い子育て家庭や核家族が多く、地域との結びつきが薄いといった特性を考えると、住民同士のつながりや助け合いの仕組みづくりが課題であると言える。

そこで、生活の充実と共に、豊かな人間関係を基本にした生涯学習における学びや、地域の方が子どもの体験活動等に関わる中で、地域住民がつながりを深め、共助を大切にし、住民同士がお互いを尊重する地域づくりが求められている。

さらには、地域の特色を生かした活動や地域の課題を解決する活動を取り入れることで、自分の住む地域に愛着を持つきっかけとなり、社会全体の向上につながってい

くと考えている。

市では、現在、市民や関係機関と連携し、各施設で講座・教室のほか、ワークショップ、体験学習などの工夫を取り入れながら、時代の流れや課題を学ぶ機会を充実させるとともに、地域住民同士がつながる環境を提供している。

しかしながら、市民の学習ニーズへの対応については、行政だけでは限界があり、住民参画による講座の企画・運営が求められている。

そこで、社会教育委員会議では、標記のテーマについて、現状・課題・解決策等について、委員の皆様それぞれのお立場からお一人ずつご意見を伺い、意見交換を行っていただきたい。

いただいたご意見については、生涯学習を推進する事業を実施する際の指針とさせていただきます。

#### ○榎本委員

ボランティア活動について、生徒たちはとても熱意があるため、今後も広くボランティア活動の募集をしていただければと思う。特に、福祉関係のボランティアに盛んに参加している。また、市民まつりでボランティア要請があればすすんで参加する生徒もいる。生徒からは、ボランティア活動を通じて、保育園や図書館等でまたボランティア活動をやりたいという声も聴く。市民体育祭や、公民館協力ボランティアを広く募集していただければ、小・中・高や地域との連携が可能かと思う。

また、第二中には園芸部あり。先日、和光市菊花会会員に学校で指導していただく機会があり、園芸部が非常に喜んで、意欲的に取り組んでいた。

学校が地域の核とならなければいけないので、人材バンクの見直しとして、地域の専門的な知識を持った方に学校に入ってもらおうというように、学校から生涯学習課に連絡してすぐに指導者を派遣してもらえともっとよくなると思う。

#### ○北原委員

来年度事業計画策定時には、既にも実施しているかもしれないが、実際に子育てしている方からのアンケート調査や意見を含めた計画を策定していただきたい。

#### ○加藤委員

新倉小学校では、夏に昔よくやっていたラジオ体操を復活させた。地域の自治会の方にもご協力いただき、生徒、保護者、学校と連携し、見える学校づくり、見える地域づくりを目指している。

#### ○事務局

市では、一市民、一スポーツを推進するために、スポーツ振興計画を策定するにあたって、施策を具現化するものとして、ラジオ体操を考えている。詳細については、広報8月号に掲載する予定となっているが、新倉小学校と同様に、樹林

公園にてラジオ体操を企画している。

○石田委員

私の住む自治会は600所帯ほど居住しているが、皆に集まっていただく集会場がないので、市で考えていただければと思う。

○伊藤委員

各学校から地域にいろいろな依頼があるが、例えば、学校から下校時に地域で見守りを依頼される場合がある。地域同士の横のつながりがなく、依頼は一方的である。先日も市に依頼したが、地域には、子どもを守る家があるが、地域で子どもたちを見守るといふことをしたいが、子どもを守る家の名簿がまだできていないと言う。今年度、3か月が経過したが、まだできていない。地域全体で子どもを守ろう、地域の安心・安全と言っておきながら、肝心なことができていないので、横のつながりを作ってもらいたい。

地域で子どもたちを見守っていると、子どもたちがいつもより早く下校したりすることがある。子どもたちに聞くと、今日は下校が早いと言うことが度々ある。

学校側としては、学校だよりを作成しているというが、そういった情報が全く地域に伝わってこないなので、ただ一方的に依頼するのではなく、地域にきちんと情報を周知してから依頼して欲しい。

また、自治会で立て看板を設置するために、学校にチラシを配布して欲しいと依頼したが断られ、会場として、学校の校庭を使用させて欲しいとあったが、断られた。依頼される一方で、全く連携が図れない。

また、公民館の使用について、丸山台・中央地区には自治会として8つの組織がある。自治会合同で公民館の利用申請をしたいが、各団体の長の名前で申請しろと言われていたり、大きな活動をするにあたって、予約開始前に利用申請を依頼しても、予約開始日に来いと言う。余り細かいことを行って制約されると、一生懸命活動しようと思ってもこういった状況では活動できないので、改善して欲しい。

○磯崎委員

中学生と地域の交流として、一昨年・昨年に、一新会に市内の中学校の吹奏楽部が演奏しに来てもらう機会があった。子どもたちは、学校で非常に頑張っているが、なかなか地域の人や学校やサンアゼリアなどで演奏している様子を見るのがなかった。しかし、子どもたちが地域に来て演奏してもらうことで、子どもたちの頑張っている顔を実際に見て、非常に感動した。ぜひ、地域での発表を今後もお願いしたい。

○山形委員

事業が多く、参加率も半分程度なので、よい部分もあれば、負担も大きい部分もあるかと思う。今後、予算的にも厳しい状況になっていくと思われるので、事

業を精査しながら、実施していただければと思う。市内のマンションに在住しているが、町内会等からみればマンションは閉鎖的かと思う。マンションによっては、努力している所もあるが、一方では町内会等に属していないところもあるので、地域とのつながりはなかなか難しい。和光市は、転出入が多い中、地域に溶け込みづらい部分はある。そういう方が多いという事実をとらえた事業展開が必要。なかなか地域だけでやっていくということは難しい状況である。

図書館協議会委員をやっているが、図書館ではご高齢の方も多し。社会の最前線で活躍されていた方が、環境を与えられてサークルや趣味を楽しむというよりも、社会に還元できることが必要。街でお金をかけず、高齢者や若い世代が有機的につながるものができるとうい。

#### ○富田委員

生涯学習は、同じような趣味・趣向の方が集まって、学んだり、活動するというイメージが強いが、本来は、多様な年代や専門が異なる方が学び合える場があるとよい。

また、生涯スポーツを継続することは、自分の健康にとっても大切であり、ストレス発散などの相乗効果も期待できるので、適度な運動を継続できるような指導をしていただけるとよい。

第三小夏祭りの委員長を担っており、和光太鼓、盆踊り等、自治会の方を始め、地域の方のご協力により7月21日（土）16：00～19：00頃まで開催を予定している。夏祭りの企画に携わることで、和光音頭の存在を知り、図書館で古いカセットがあることを知った。地元の方のお話では、昔は、小学生の頃に皆が学んだと聞いた。地域の伝統や文化はとても大切なものであり、子どものときに培ったものは大切である。地元の方のお話では、何十年経っても音楽を聞くと踊れるものだと言っていたので、それらも生涯学習の一つであると思う。学習スキルをあげるだけでなく、お祭りを開催することで、世代を越えて地域の方が交流し、白子囃子などの伝統も継承することができるので、お祭りの場が生涯学習の場になると痛切している。

#### ○伊藤委員

和光音頭は、和光市民体育祭で毎年踊っている。

#### ○大谷議長

昔は、小学校の運動会などで地域の方も一緒に輪になって、和光音頭を踊っていた。

本日の委員の意見を各団体の方や事務局で貴重な意見を参考に事業等に反映していただければと思う。

#### ○鳥飼副議長

公民館利用者の中には、趣味活動だけでなく、地域にも貢献しようという方もたくさんいる。詩吟活動を通じて、地域に呼びかけを行い、現在は、午王山の会を結成し、活動を行っている。活動者は、皆ボランティアで、継続的に活動することで、地域とのつながりが生まれている。趣味を通じた地域のつながりが、人間としての道徳につながっていくと思う。

(5) その他

○事務局

生涯学習ガイド2012の紹介及び今後のスケジュールについて説明。

5 閉会